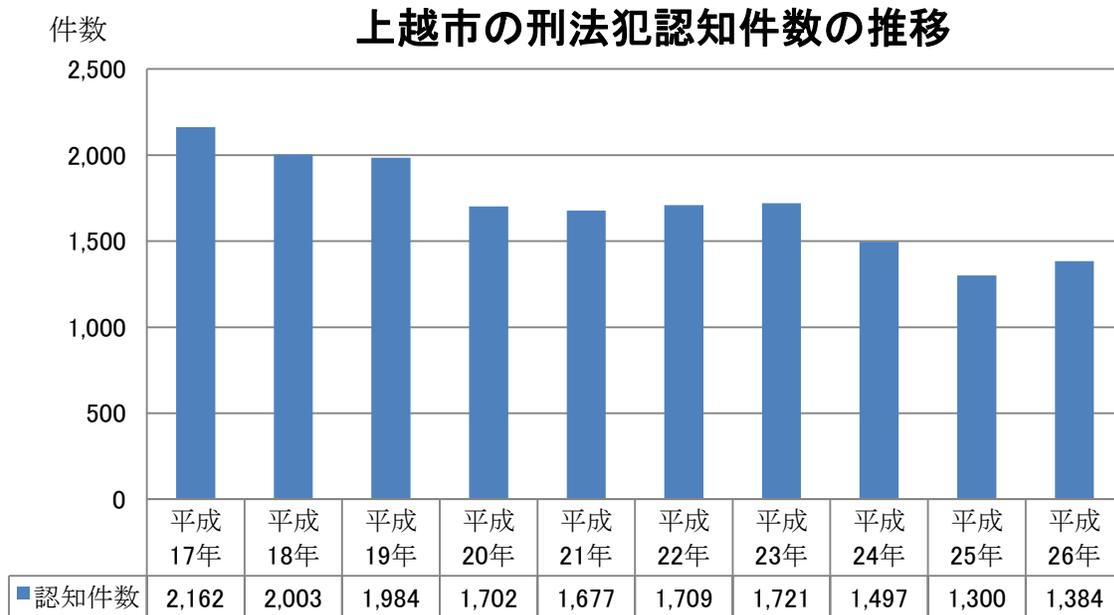


## 第2章 犯罪の現状と市民の防犯意識等

### 1 犯罪発生 の 現状

本市の刑法犯認知件数は、平成14年の3,242件をピークに減少傾向に転じ、平成26年には1,384件とピーク時の平成14年から1,858件、率にして約57%減少しました。



※国、県とデータの整合を図るため、警察の年間データを登載します。(以下同じ。)

※ 刑法犯認知件数とは、刑法（暴力行為等処罰ニ関スル法律など一部の法律を含む。）に規定された犯罪（交通事故によるものを除く。）で、警察において被害届、告訴等を受理した件数です。道路交通法やその他の法律に規定された違反や罪は含みません。

---

## 2 罪種別状況

---

本市における刑法犯認知件数を罪種別に比較すると、窃盗犯の割合が、10年前と比べやや下降傾向にありますが、知能犯、粗暴犯、その他の犯罪の割合が伸びる傾向にあります。

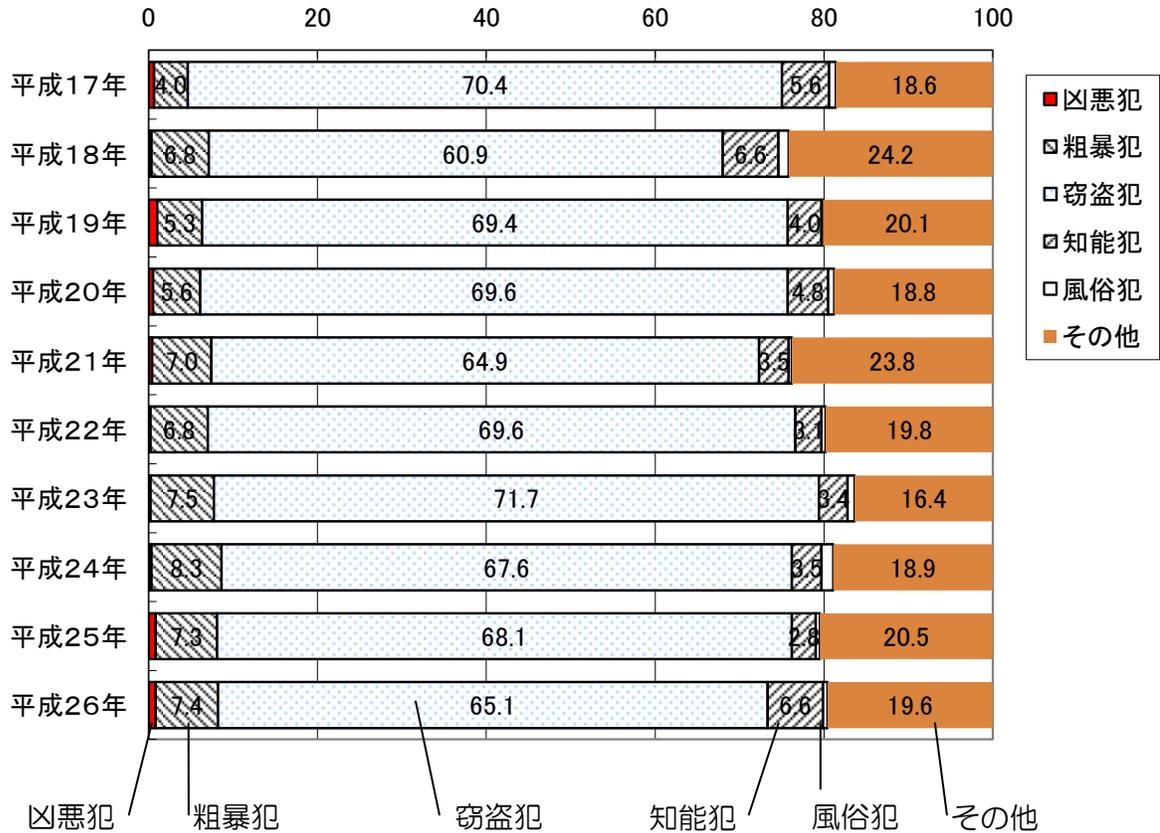
窃盗犯では、10年前の平成17年には1,521件（70.4%）であったものが、平成26年は901件、率にして約40.8%減少しています。

詐欺などの知能犯では、10年前の平成17年には121件（5.6%）であったものが、平成25年まで減少傾向となっていました。平成26年は、社会的弱者を狙った振り込め詐欺などの特殊詐欺の40件の増加により、91件と増加しています。

暴行などの粗暴犯では、10年前の平成17年から100件前後と高止まりで推移し、平成26年は103件です。

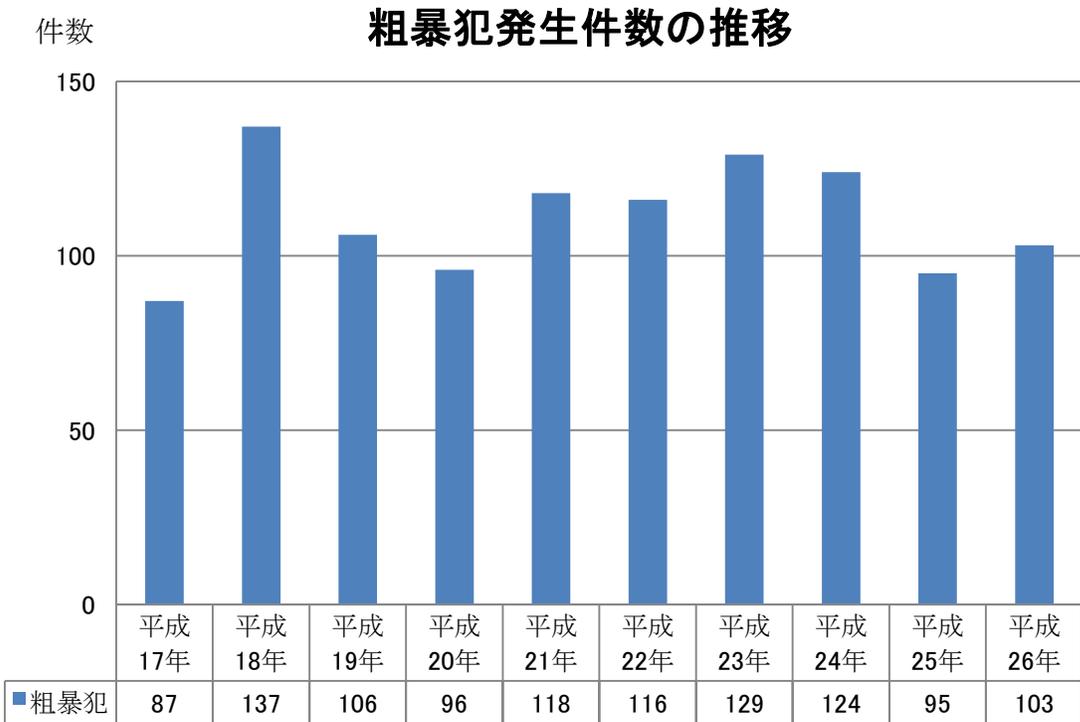
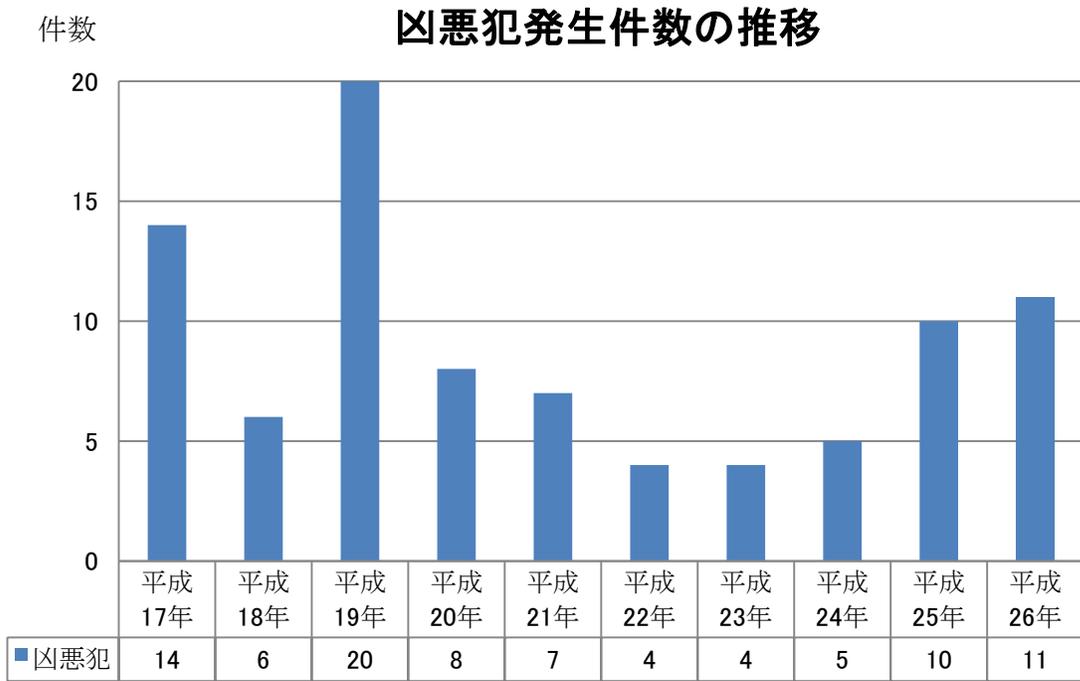
器物損壊や住居侵入、占有離脱物横領などのその他に分類される犯罪は、10年前の平成17年に401件（18.6%）であったものが、平成26年は271件まで減少しました。

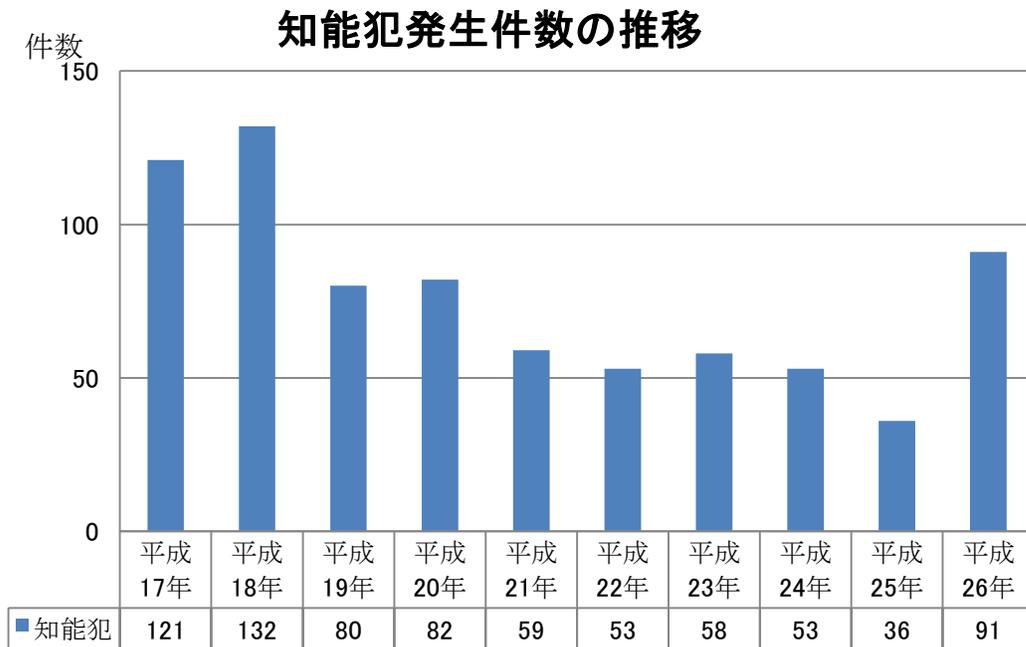
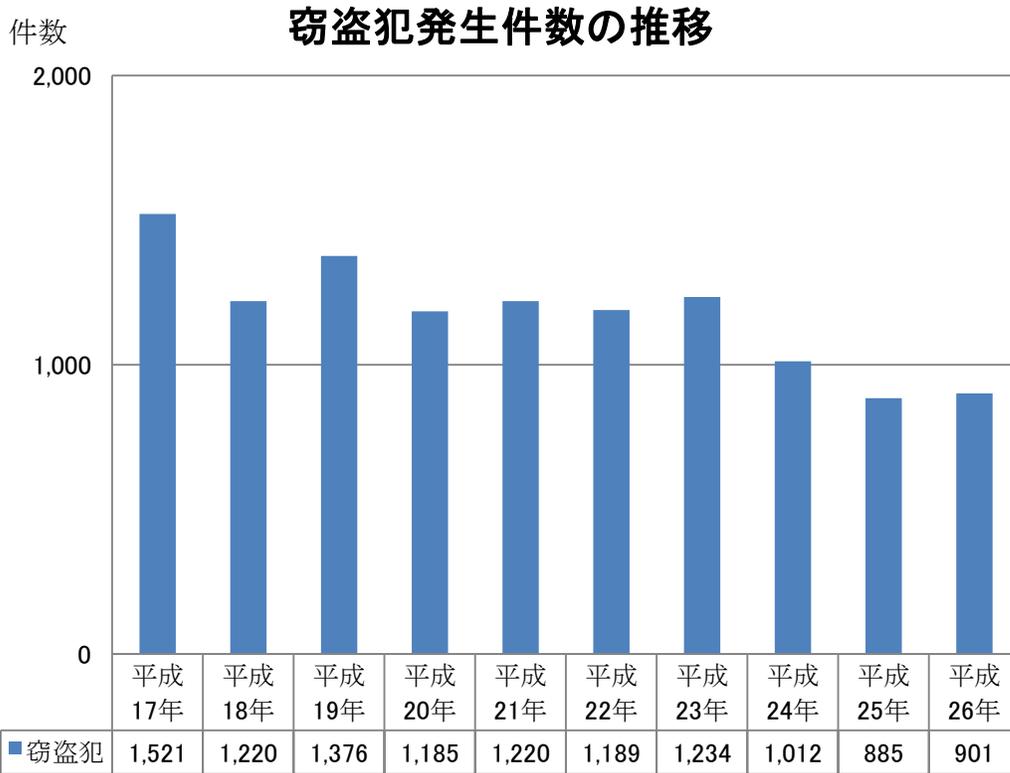
罪種別構成比の推移

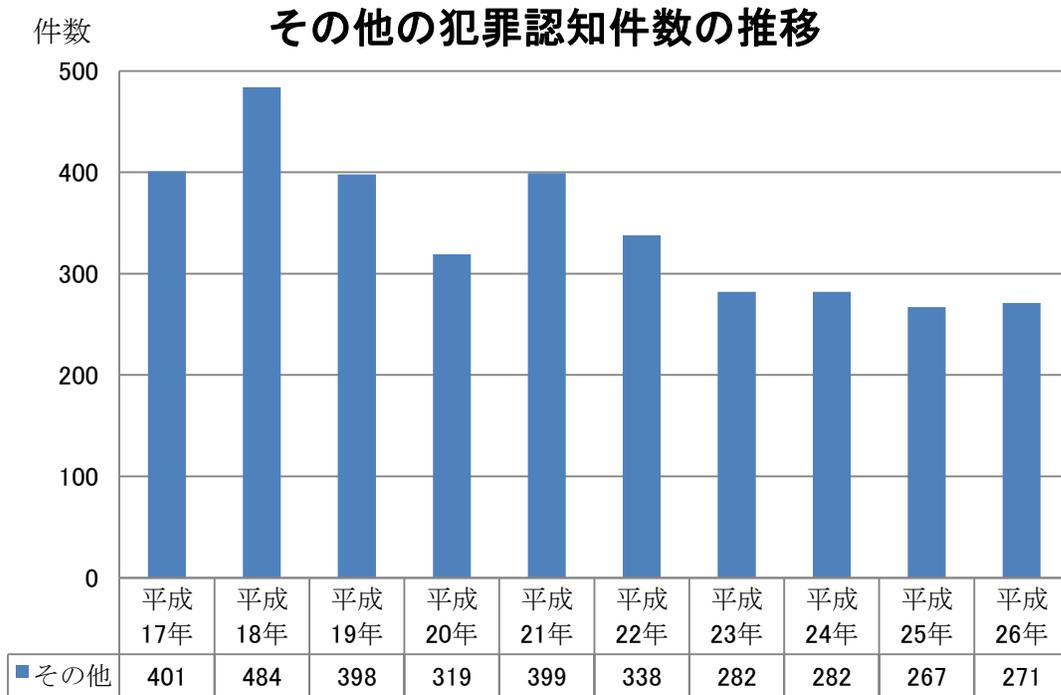
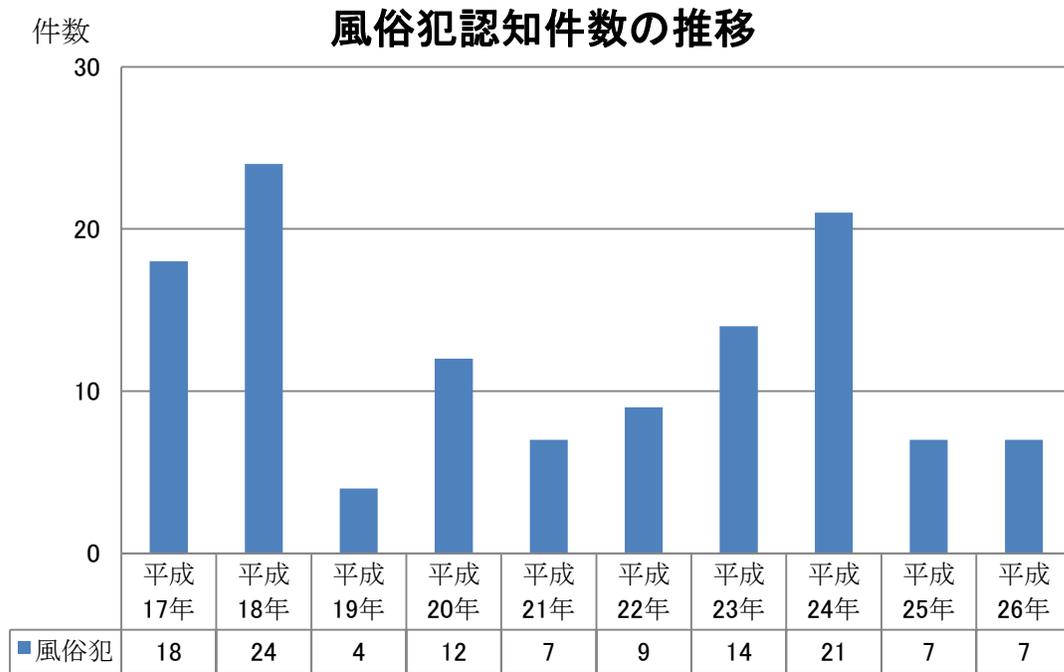


※凡例

- 凶悪犯 : 殺人、強盗、放火、強姦などの罪
- 粗暴犯 : 暴行、傷害、脅迫、恐喝などの罪
- 窃盗犯 : 窃盗の罪
- 知能犯 : 詐欺、横領（占有離脱物横領を除く）、偽造、汚職、背任などの罪
- 風俗犯 : 賭博、強制わいせつ、公然わいせつなどの罪
- その他 : 器物損壊、住居侵入、占有離脱物横領などの罪







### 3 身近なところで起こりうる犯罪の状況

平成26年の本市における刑法犯認知件数1,384件のうち窃盗犯は901件で、全件数の65.1%を占めています。

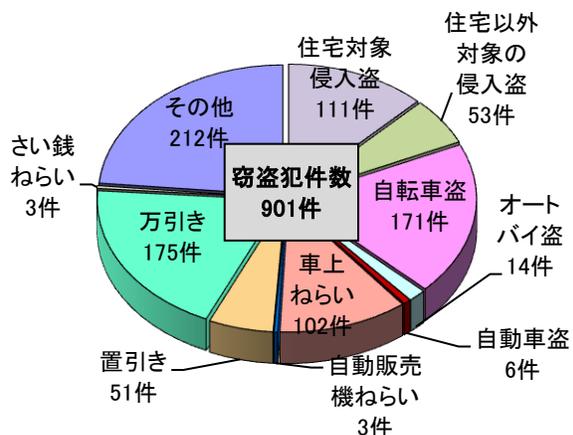
窃盗犯は、市民が最も被害に遭いやすく、また最も身近なところで起こりうる犯罪といえます。

#### 3-1 窃盗犯の手口別状況

平成26年の窃盗犯901件の内訳は下表のとおりですが、侵入盗、自転車盗、車上ねらいで全体の約半数を占めています。

侵入盗	住宅対象		111件(12.3%)	164件(18.2%)
	住宅以外対象		53件(5.9%)	
	小計		164件(18.2%)	
非侵入盗	乗り物盗	自転車盗	171件(19.0%)	191件(21.3%)
		オートバイ盗	14件(1.6%)	
		自動車盗	6件(0.7%)	
	車上ねらい		102件(11.3%)	546件(60.5%)
	自動販売機ねらい		3件(0.3%)	
	置引き		51件(5.7%)	
	万引き		175件(19.4%)	
	さい銭ねらい		3件(0.3%)	
	その他		212件(23.5%)	
小計		737件(81.8%)		
合計		901件(100%)		

上越市における  
窃盗犯の手口別構成比  
(平成26年)



3-2 「カギかけ(施錠)」の状況

新潟県の犯罪被害の特徴は、「カギかけ(施錠)」がされなかったことが原因で犯罪被害に遭うケースが、全国と比較して多いことです。主な窃盗事件の「カギかけ(施錠)」忘れによる被害の率はいずれも約6~9割であり、全国的に見ても高いといえます。

この傾向は本市においても同様で、特に空き巣、忍び込みによる犯罪被害は顕著となっています。こうした現状を市民が理解し、防犯意識を高め、防犯の第一歩である「カギかけ(施錠)」を励行することで、被害の減少が可能となります。

主な窃盗事件の施錠忘れによる被害率

		空き巣 ※1	忍び込み ※2	自転車盗	自動車盗	オートバイ盗	車上ねらい
上越市	平成25年	78.6%	83.6%	56.7%	100%	50.0%	84.9%
	平成26年	90.7%	97.0%	70.8%	50.0%	57.1%	59.8%
新潟県	平成25年	71.9%	88.4%	71.8%	71.8%	59.7%	77.2%
	平成26年	75.5%	89.0%	74.0%	77.0%	70.2%	64.2%
全国	平成25年	43.5%	76.4%	57.9%	26.0%	24.5%	41.1%
	平成26年	45.7%	78.9%	58.3%	26.6%	26.6%	47.3%

※1 空き巣 : 家人が不在の屋内に侵入し金品を盗むこと

※2 忍び込み : 夜間家人の就寝時等に屋内に侵入し金品を盗むこと

4 悪質・巧妙な特殊詐欺

特殊詐欺は、電話等を使って被害者に高額な現金を振り込ませる等、悪質・巧妙な手口の犯罪であり、手口が多様化、巧妙化しながら、現在でも全国的に被害が続いています。

特殊詐欺とは、表に示すとおり、2つの種類に区分され、8つに類型化されます。

種 類	類 型	
振り込め詐欺	オレオレ詐欺	電話を利用し、家族や警察官、弁護士等を装って交通事故の示談金や借金返済等を名目にして現金を預金口座等に振り込ませて騙し取るもの
	架空請求詐欺	郵便、インターネット等を利用して不特定多数の者に対し、架空の事実を口実とした料金を請求する文書等を送りつけ、口座に現金を振り込ませて騙し取るもの
	融資保証金詐欺	実際には融資をしないにもかかわらず、融資をする旨の文書等を送付するなどして、預金口座等に現金を振り込ませて騙し取るもの
	還付金等詐欺	公の機関を装って、過払いの医療費などの還付を名目にして、ATM機を操作させ、口座振替をさせて騙し取るもの
振り込め詐欺以外	金融商品等取引名目詐欺	パンフレットを送りつけ、「必ず儲かる」などと騙し、未公開株や社債などの購入を勧め、購入代金などの名目で現金を騙し取るもの
	異性との交際あっせん名目詐欺	雑誌やメールなどで「恋人紹介」など并表示して顧客を募集し、これに申し込んだ者から紹介料や保証料などの名目で現金を騙し取るもの
	ギャンブル必勝情報提供名目詐欺	雑誌やメールなどで「パチンコ必勝法」「競馬必勝法」などを販売するなど并表示して顧客を募集し、購入を申し込んだ者から情報提供料などの名目で現金を騙し取るもの
	その他の名目詐欺	上記以外の非面接詐欺

お金を騙し取る方法として、金融機関窓口を利用しての振込・口座振替、ATM機（現金自動受払機）を利用しての振込・口座振替・送金、レターパック・ゆうパック・宅配便を利用しての送金、直接被害者から現金を受け取る手交型など現金を騙し取る方法は様々です。

本市における特殊詐欺の発生状況は、平成17年に24件であったものが、減少の傾向にありましたが、振り込め詐欺以外の特殊詐欺の手口が増加したことにより、被害額は多額になっています。平成26年は、40件で約1億932万円と新潟市に次いで多い被害がありました。

今後も「電話でのお金の話は詐欺」と市民防犯フェアや防犯座談会、防犯教室をはじめ、あらゆる機会を通じ、特殊詐欺被害防止の意識啓発を図るとともに、相談窓口がある、市、警察、消費生活センターが情報を共有し、市ホームページや広報上越などを利用し、啓発を図っていきます。

特殊詐欺の被害発生状況（平成22年～平成26年）

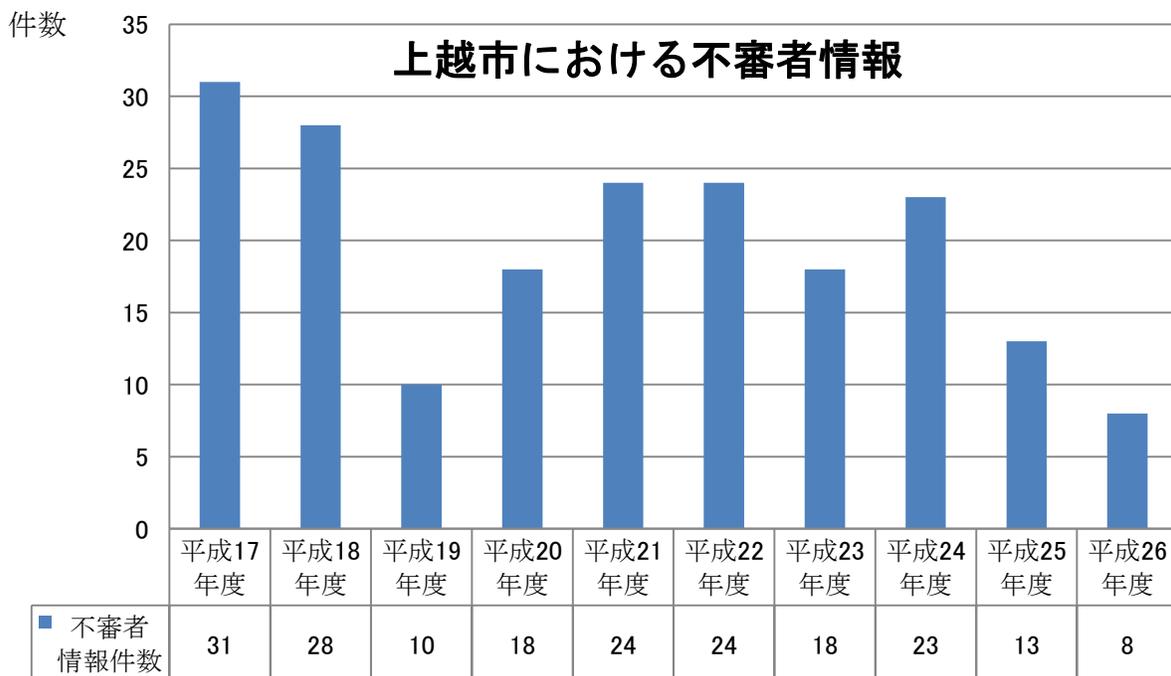
区 分	被害金額	被 害 件 数 (件)									
		オレ オレ	架空 請求	融資 保証 金	還付 金等	金融 商品 等取 引	ギャ ンブ ル必 勝	異性 交際 あっ せん	その 他	合 計	
上越市	平成22年	約151万円	1	4	0	0	0	0	0	0	5
	平成23年	約567万円	2	3	2	0	0	0	0	0	7
	平成24年	約1億708万円	1	2	0	0	8	2	0	0	13
	平成25年	約3,200万円	3	5	1	0	2	0	0	0	11
	平成26年	約1億932万円	15	7	0	12	2	1	0	3	40
新潟県	平成25年	約9億4,132万円	59	31	11	4	39	8	3	9	164
	平成26年	約7億,608万円	89	45	6	35	30	7	0	10	222
全 国	平成25年	約486億9,325万円	5,383	1,556	463	1,821	1,875	587	53	279	12,017
	平成26年	約559億4,000万円	5,559	3,178	590	1,930	1,216	460	52	386	13,371

## 5 子どもの安全

### 5-1 不審者情報

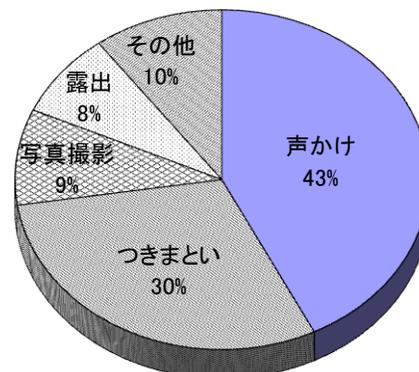
全国的に子どもを狙った通り魔的犯罪が多発する傾向にあり、子どもたちの安全を確保するための様々な取組が行われています。

本市における子どもに対する「声かけ」や「つきまとい」などの不審者に関する情報の件数は、平成21年度、平成22年度に24件あったものが、平成26年度には8件となり、減少の傾向にあります。



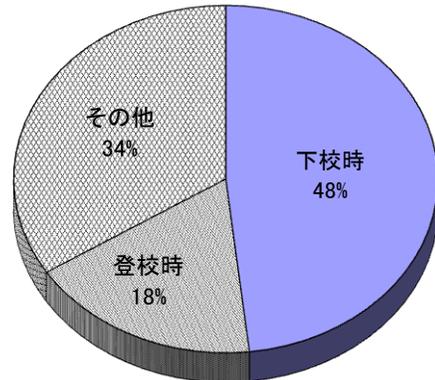
不審者情報（平成17年度から平成26年度までの累計）について態様別でみると、

- ・声かけ 84件
- ・つきまとい 59件
- ・写真撮影 18件
- ・露出 16件
- ・その他 20件



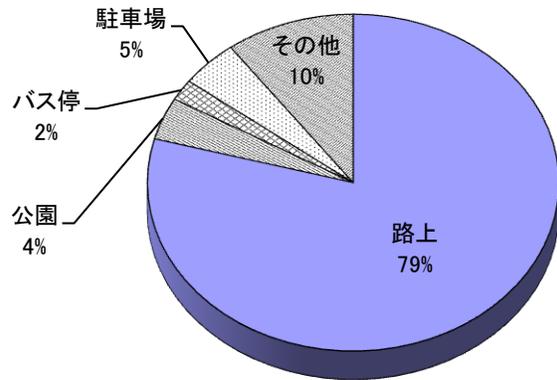
時間帯別でみると、

- ・下校時 95 件  
(15～18 時)
- ・登校時 35 件  
(～9 時)
- ・その他 67 件



場所別でみると、

- ・路上 156 件
- ・公園 8 件
- ・バス停 4 件
- ・駐車場 9 件
- ・その他 20 件



という状況にあります。

※ 5-1の不審者情報に係る統計は、上越市教育委員会で把握した内容であり、市内で発生した不審者事案のすべての件数ではありません。

また、これら不審者情報の中には、単に道を尋ねたり、善意で声をかけたりした行為などが含まれている可能性があります。

5-2 上越市安全安心情報配信システム(安全メール)

子どもの安全を守るため、本市では不審者等の情報を広く市民に伝えることにより地域社会全体の注意力を高めることを目的として、「上越市安全安心情報配信システム」(通称「安全メール」)の運用を平成16年12月から開始しています。

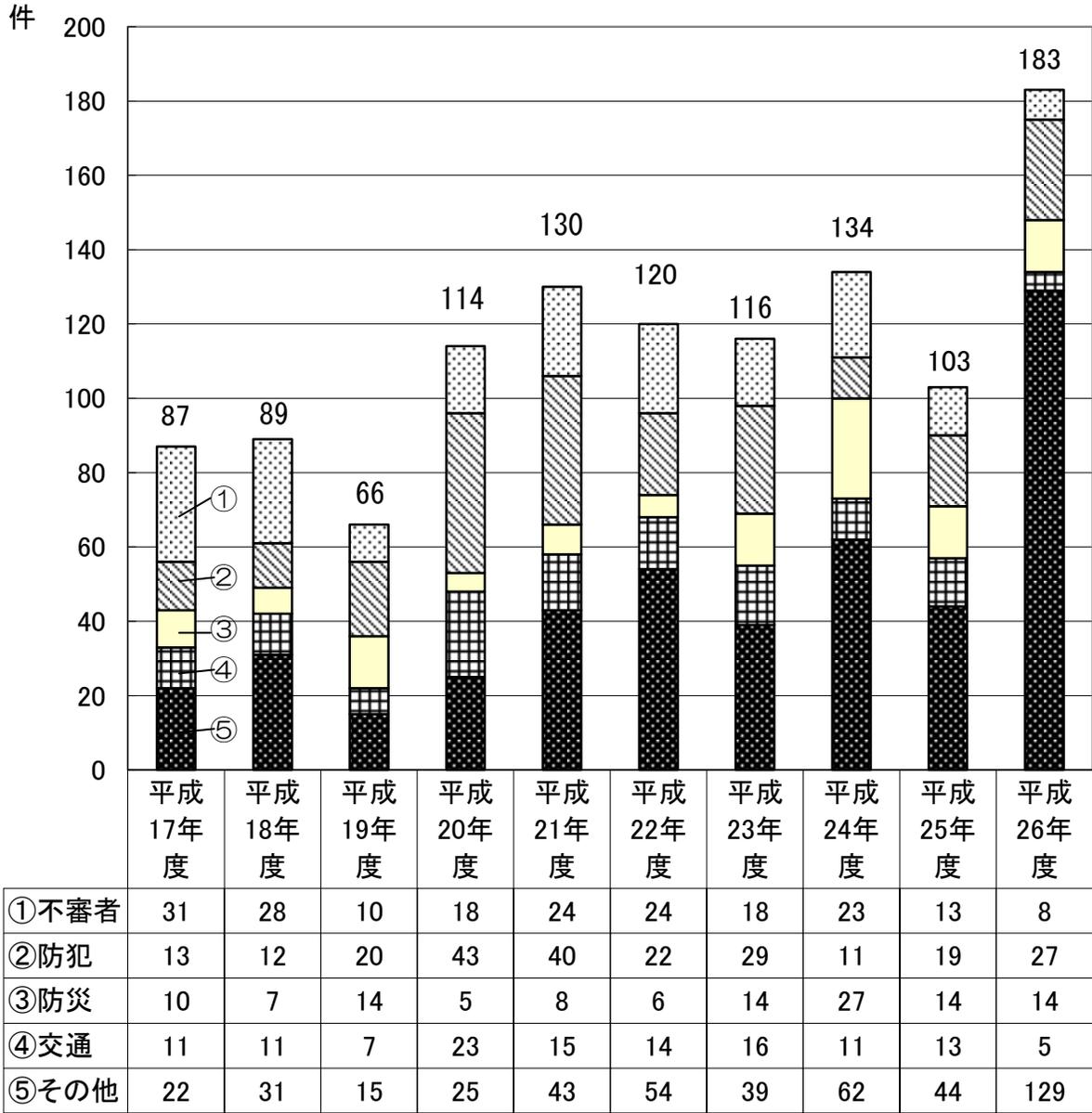
平成26年度末現在で、5,876人の市民が登録しています。また、市ホームページにも掲載することで、登録していない人でも情報が閲覧できます。



平成26年度の安全メールの配信件数は183件であり、次のとおりです。

不審者情報	8件
防犯情報	27件
防災情報	14件
交通安全情報	5件
その他(クマの出没など)	129件

安全メール配信件数



---

## 6 各区の地域特性

---

本市における平成26年の刑法犯認知件数1,384件の内訳を地域別にみると、合併前の上越市では1,138件で、市全体の件数の82.2%を占め、次いで大潟区が48件(3.5%)、頸城区が47件(3.4%)、柿崎区が42件(3.0%)と続きます。

刑法犯認知件数は、平成17年から平成26年までの10年間で、合併前の上越市では570件減少し、13区全体では205件減少していますが、人口が集積する合併前の上越市地域での発生割合が高くなっています。

また、各区の刑法犯認知件数をみると、それぞれの地域特性を反映したと思われる傾向にあり、例えば同じ山間地であっても、観光地の有無、交通の利便、人口構成などによって犯罪発生状況に違いがあります。こうした地域の特性を理解し、それらを生かした防犯、安全安心なまちづくりが重要な課題となります。

前計画の策定の際に各区の地域特性を理解し、よりよいところはどこか、伸ばせるものは何か、という視点から、地域の防犯活動の実施等を把握するため、上越市みんなで防犯安全安心まちづくり推進会議委員と各区の関係者が防犯懇談会を平成19年に5回にわたって開催しました。

この懇談会においてまとめた各区の地域特性は、現計画にも継承し各種施策に取り組みます。

(懇談会でまとめた各区の地域特性は、資料編に掲載します。)

犯罪率等の各区状況比較

	人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	平成17年 刑法犯認知 件数 (件)	平成26年 刑法犯認知 件数 (件)	H26 認知 件数割合 (%)	犯罪率 (認知件数 /1000人)
上越市	200,145	973	205.6	2,159	1,384	100.0	6.9
合併前の上越市	132,682	249	532.8	1,708	1,138	82.3	8.6
安塚区	2,705	70	38.6	18	4	0.3	1.5
浦川原区	3,597	51	70.5	32	30	2.2	8.6
大島区	1,753	72	24.3	10	6	0.4	3.5
牧区	2,156	61	35.3	11	0	0	—
柿崎区	10,304	85	121.2	93	42	3.0	4.0
大潟区	9,824	17	577.8	72	48	3.5	4.9
頸城区	9,566	38	251.7	32	47	3.4	4.9
吉川区	4,564	76	60.0	39	10	0.7	2.2
中郷区	4,114	44	93.5	31	5	0.4	1.2
板倉区	7,237	67	108.0	49	22	1.6	3.0
清里区	2,934	38	77.2	10	6	0.4	2.0
三和区	5,922	39	151.8	33	17	1.2	2.8
名立区	2,787	66	42.2	21	9	0.6	3.3

※ 人口は平成26年12月31日現在のものです。

第2章 犯罪の現状と市民の防犯意識等

本市における平成26年の刑法犯認知件数1,384件の内訳を地域自治区別にみると高田区の247件が最も多く、直江津区の235件、新道区の196件と続きます。一方で、犯罪発生が最も少ない地区は牧区の0件、諏訪区の3件、安塚区の4件の順になります。

上越市における罪種別刑法犯認知状況

区 分		凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	窃盗犯						知能犯	風俗犯	その他	合 計
					自転車盗	万引き	自動車盗	車上狙い	住宅侵入	その他侵入				
上越市	22年	4	118	1189	274	183	29	123	78	108	53	9	338	1709
	26年	11	103	901	171	175	3	102	111	53	91	7	271	1384
	増減数	7	-13	-288	-103	-8	-26	-21	35	-55	38	-2	-67	-325
高田区	22年	1	37	200	81	11	3	20	18	26	11	4	67	320
	26年	2	34	140	71	20		8	9	8	20	2	49	247
新道区	22年	1	9	177	32	74		19	1	2	5	1	40	233
	26年		5	140	15	59	2	10	8	5	3	1	47	198
金谷区	22年	1		38	3	10	2	3	1	3	4		13	58
	26年		1	31	4	3		2	8		8		9	47
春日区	22年		15	132	37	20	1	11	12	9	10		36	193
	26年	1	11	115	34	17	1	8	10	4	8	0	33	188
諏訪区	22年			1					1		1		1	3
	26年			3				1	2					3
津有区	22年		2	21	4	4	2	1		2	1		9	33
	26年			21		2		5	11	3	1		8	28
三郷区	22年			8				2	1	1			1	9
	26年			12				1	4	1	3		2	17
和田区	22年		2	16	3	1		2		2	2		6	26
	26年		3	18		2			2		2		3	28
高士区	22年		1	7	1			1			1			8
	26年			6				1	3	1	1		1	8
直江津区	22年		27	169	37	36	3	13	8	13	7	1	49	253
	26年	5	19	135	24	42		16	5	11	18		58	235
有田区	22年		5	120	39	16	1	10	8	9	3	1	35	164
	26年		14	78	5	22		7	7	7	4	2	17	115
八千浦区	22年		2	28	5		1	1	1	10		1	10	41
	26年		2	12		1		5	1	1		1	2	17
保倉区	22年			8		1		1					1	9
	26年			4				1	1		1			5
北諏訪区	22年		1	8			2	1		2			2	11
	26年			12				3	6				2	14
谷浜・桑取区	22年		1	8	1			2		2			7	18
	26年			6				4		1	1			7
安塚区	22年	1		15					8				1	17
	26年			3				1			1			4
浦川原区	22年			12		1		1	2	2	2		4	18
	26年		1	20				7	2	1	1		8	30
大島区	22年			6			1		1	3			1	7
	26年	1		5				1						6
牧 区	22年			10					5	1			1	11
	26年													0
柿崎区	22年		3	46	4	4	4	6	4	7	2		12	63
	26年	1	1	26	2	4		2	4	2	5		9	42
大淵区	22年		2	29	7	3	3	2		2	1	1	12	45
	26年	1	3	30	10	2		6	5		2		12	48
頸城区	22年		4	40	19	1		8					11	55
	26年		5	33	6			3	10	6	2		7	47
吉川区	22年		1	14			2	4	1				4	19
	26年			9				1	3	1	1			10
中郷区	22年		3	19			1	4	4	4	1		3	28
	26年			3				1			1		1	5
板倉区	22年			22	1	1		3		2	1		2	25
	26年		1	14		1	0	5	4	2	5		2	22
清里区	22年		1	7				1		4			2	10
	26年		1	3				2	1		2			8
三和区	22年			10				3	1		2		3	15
	26年		1	13					5	1	1		2	17
名立区	22年			17			3	3	2	1			3	20
	26年		1	7				1			1			9
不 明	22年			1				1					2	3
	26年			2				2			1	1	1	5

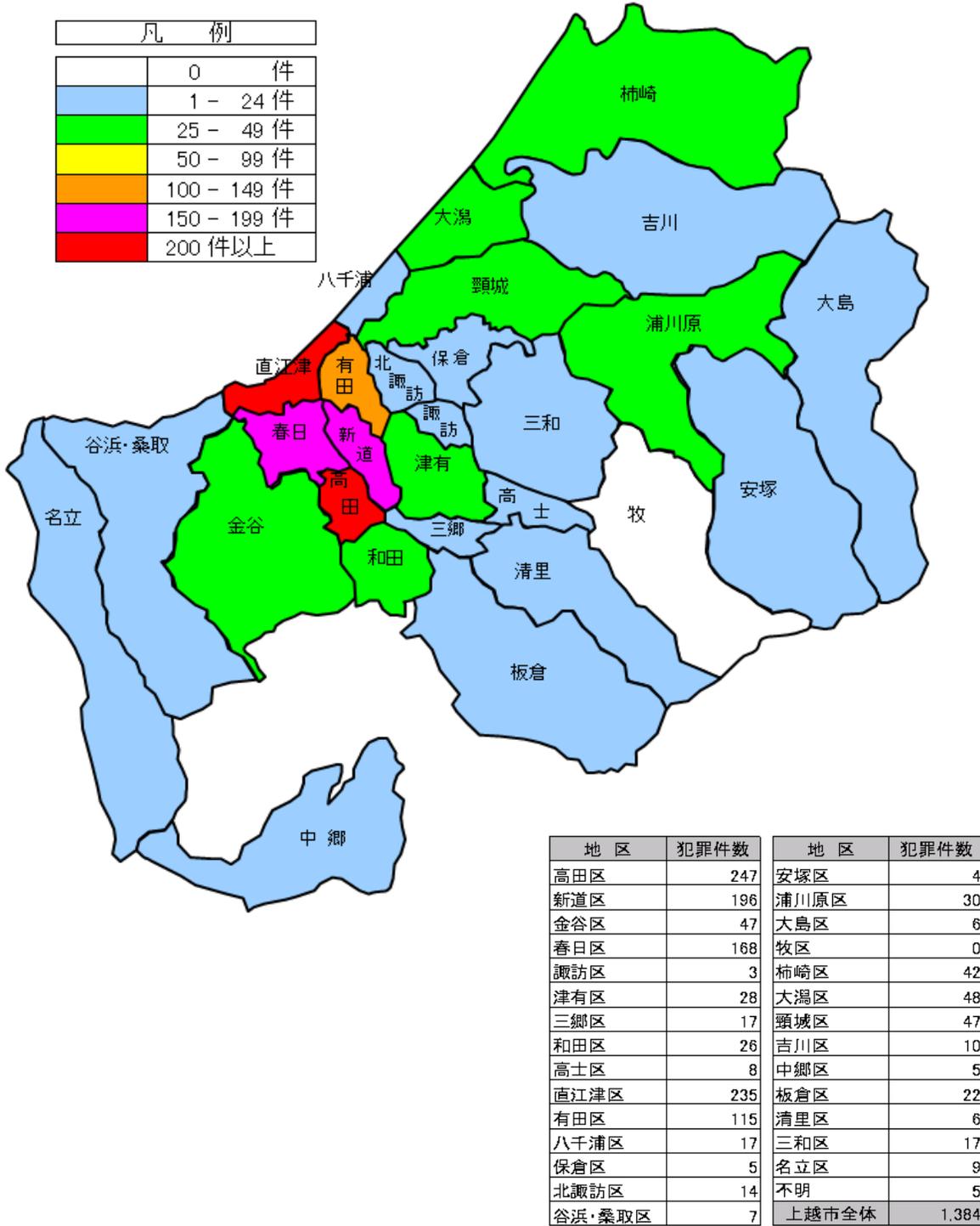
※ 上記データは速報値につき、多少の誤差が生じる場合があります。

※ 不明：被害場所が複数の地域自治区にまたがり、特定できない場合です。(例 車上ねらい、無賃乗車、雑物盗等)

※ 平成22年以前の地域自治区別データはありません。

# 犯罪発生件数マップ

平成 26 年中

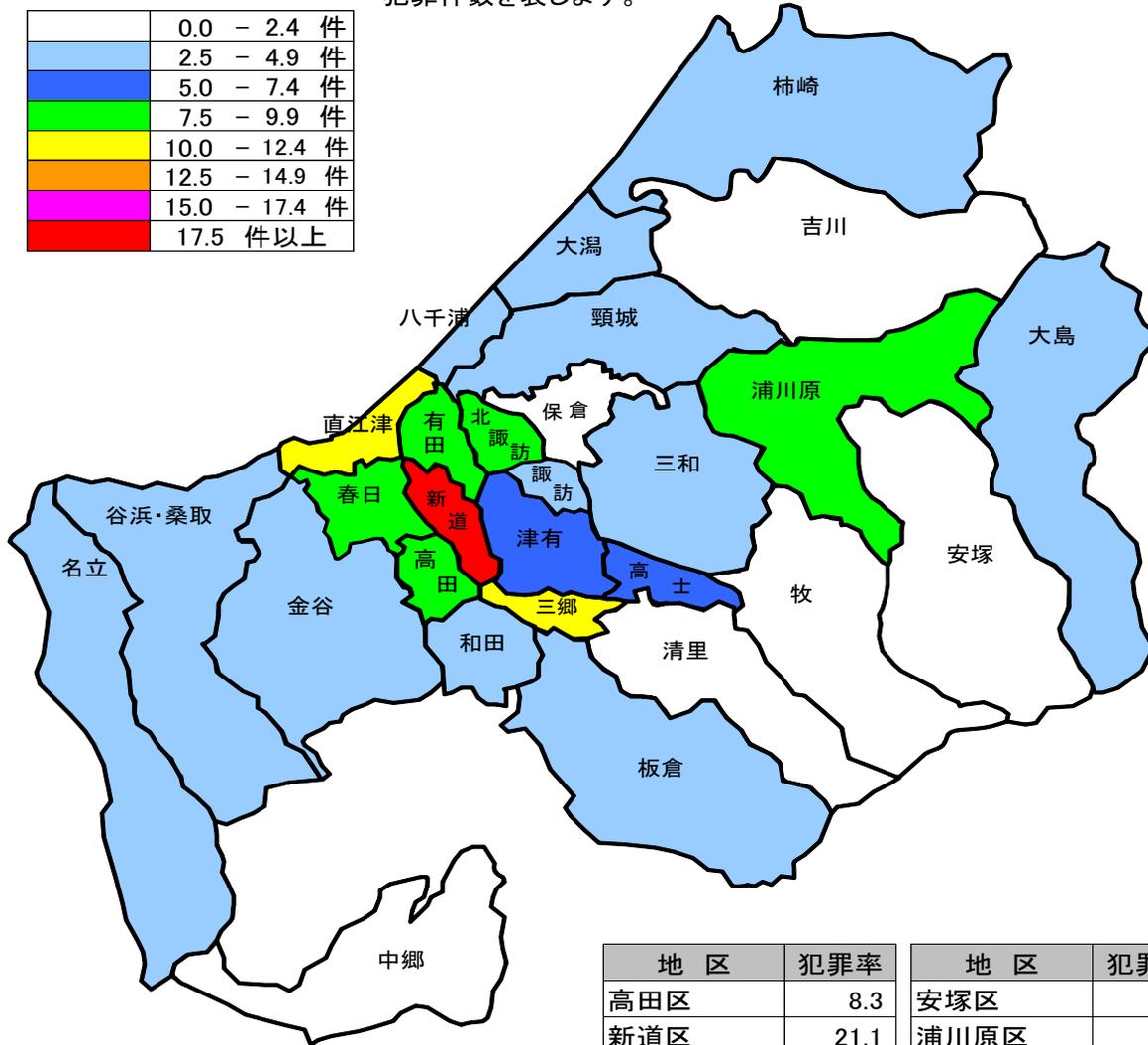


## 犯罪率マップ

凡 例	
	0.0 - 2.4 件
	2.5 - 4.9 件
	5.0 - 7.4 件
	7.5 - 9.9 件
	10.0 - 12.4 件
	12.5 - 14.9 件
	15.0 - 17.4 件
	17.5 件以上

犯罪率とは、人口1,000人あたりの犯罪件数を表します。

平成26年中



地区	犯罪率	地区	犯罪率
高田区	8.3	安塚区	1.5
新道区	21.1	浦川原区	8.3
金谷区	3.2	大島区	3.4
春日区	8.2	牧区	0.0
諏訪区	2.9	柿崎区	4.1
津有区	5.6	大湫区	4.9
三郷区	11.9	頸城区	4.9
和田区	4.5	吉川区	2.2
高士区	5.3	中郷区	1.2
直江津区	12.3	板倉区	3.0
有田区	7.7	清里区	2.0
八千浦区	4.1	三和区	2.9
保倉区	2.2	名立区	3.2
北諏訪区	8.7	不明	—
谷浜・桑取区	4.0	上越市全体	6.9

---

## 7 市民の意識

---

内閣府の「治安に関する特別世論調査」（平成24年8月）では、「日本は安全・安心な国か」との質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した方は59.7%です。

「上越市市民の声アンケート報告書」（平成26年1月）では、「治安がよい」との質問に対し、「そう感じる」「ある程度感じる」と回答した方は88.1%です。

また、市の取組の重要度に関する質問においても、「防犯対策」は「防災対策」、「雪対策」などの取組とともに上位を占め、市民が「暮らしの安全と安心」を感じることができる効果的な政策に関心をよせていることは明らかです。

こうした市民の意識を踏まえ、犯罪の防止に努めた安全で安心な地域社会を実現させるため、市、市民、町内会、防犯団体、事業者が「地域の安全は自ら守る」という意識のもとで、犯罪の防止に努めた安全で安心な地域社会の実現に取り組んでいきます。

本市は、安全安心まちづくりを総合的、計画的に推進していくため、「市政モニターアンケート」を通じて「防犯」に関する市民の意識を調査しています。

以下は市政モニターアンケートの結果について主要部分をまとめたものです。

（平成18年度からの各年度市政モニターアンケートは、資料編に掲載しています。）

7-1 防犯意識

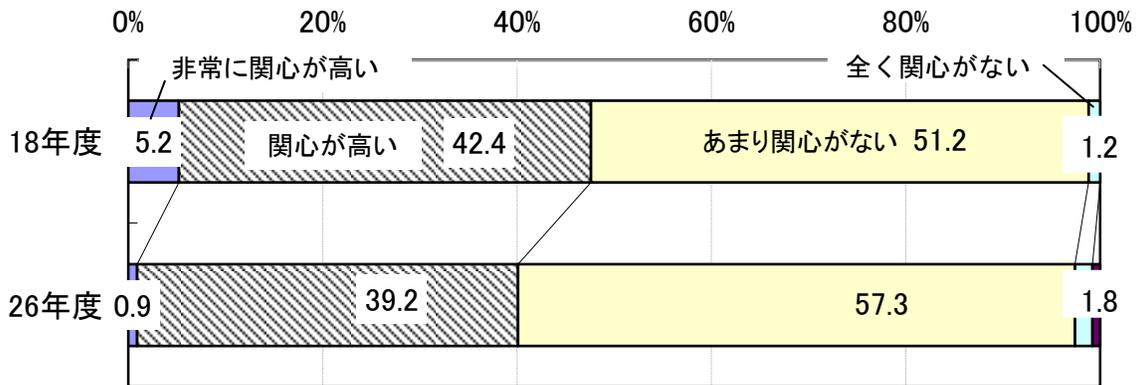
平成 26 年度の市政モニターアンケートでは、防犯への関心度について、全体の 40.1%が「関心が高い」という回答であり、安全で安心な地域社会の実現のため、市民の防犯意識を更に高め  
ていく必要があります。

※無回答は、除きます。(以下同じ)

《問》あなたが住む地域の方々は、「防犯」に関して関心が高いと思いますか。  
当てはまるものを1つ選んでください。

	平成 18 年度	平成 26 年度
という質問に対し、		
「非常に関心が高い」	5.2%	0.9%
「関心が高い」	42.4%	39.2%
「あまり関心が高くない」	51.2%	57.3%
「全く関心がない」	1.2%	1.8%

という結果でした。



7-2 地域防犯

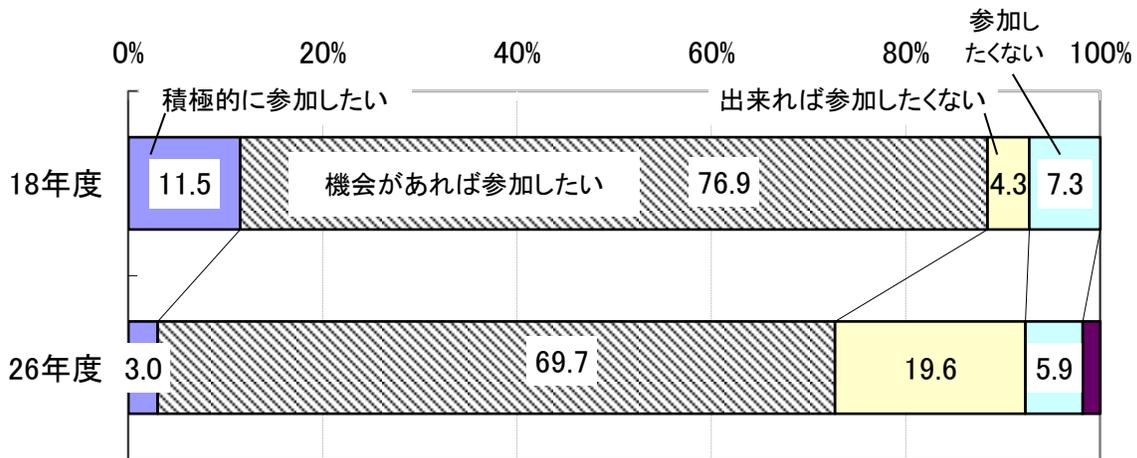
平成26年度の市政モニターアンケートでは、防犯活動との関わりについて、全体の72.7%が「参加したい」と思っているものの、「積極的に参加したい」という回答は約3.0%にとどまっています。また、参加したいと考える防犯活動は、登下校時の通学路パトロール、徒歩による“ながらパトロール”などの活動がそれぞれ4~5割という結果でした。

市民の地域防犯活動への積極的な参加を高め、地域の連帯感と自主防犯意識を高めていく必要があります。安全で安心な地域社会の実現に向けて、市民から積極的に防犯活動に参加していただく機会を設けていく必要があります。

《問》 今後、あなたは地域での防犯活動に参加したいと思いますか。

という質問に対し、	平成18年度	平成26年度
「積極的に参加したい」	11.5%	3.0%
「機会があれば参加したい」	76.9%	69.7%
「出来れば参加したくない」	4.3%	19.6%
「参加したくない」	7.3%	5.9%

という結果でした。



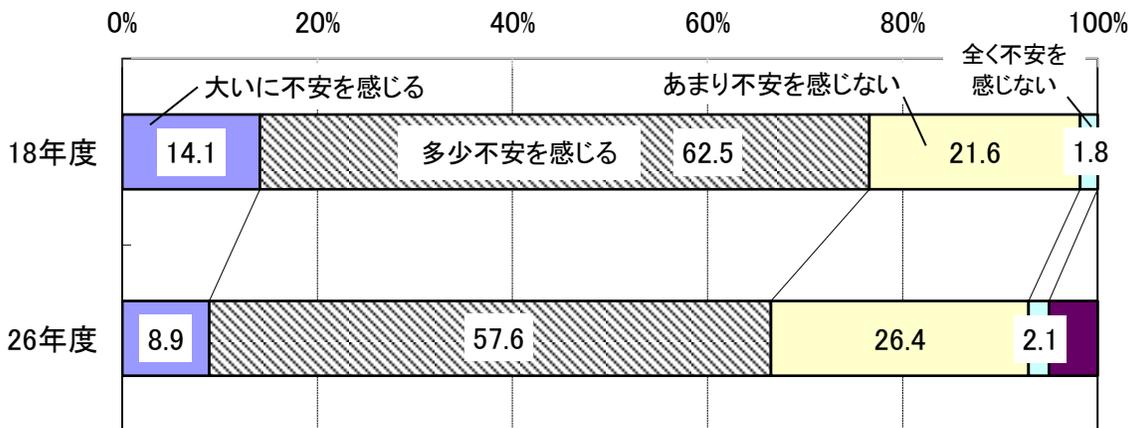
7-3 防犯環境

平成26年度の市政モニターアンケートでは、犯罪の被害者になることについて、全体の66.5%の方が、何らかの犯罪の被害に遭うかもしれないという不安感を抱いており、不安を感じている犯罪については、侵入盗（空き巣、事務所荒し等）、商法犯罪（特殊詐欺等）、屋外での犯罪（車上ねらい、自動販売機ねらい等）、乗り物窃盗（自動車、自転車、バイク）、性的犯罪（痴漢、ストーカー等）、不審者事案（声かけ、つきまとい等）などの身近で起こりうる犯罪であるという結果でした。

《問》あなたは、ご自身やご家族が「何らかの犯罪に巻き込まれて、被害者になるかもしれない」と不安を感じますか。当てはまるものを1つ選んでください。

という質問に対し、	平成18年度	平成26年度
「大いに不安を感じる」	14.1%	8.9%
「多少不安を感じる」	62.5%	57.6%
「あまり不安を感じない」	21.6%	26.4%
「全く不安を感じない」	1.8%	2.1%

という結果でした。



また、犯罪の被害者になりうる原因として、全国各地で凶悪事件が増えているが圧倒的に多く、次いで身近な場所で犯罪が増えているや犯罪発生状況がわからないという結果でした。

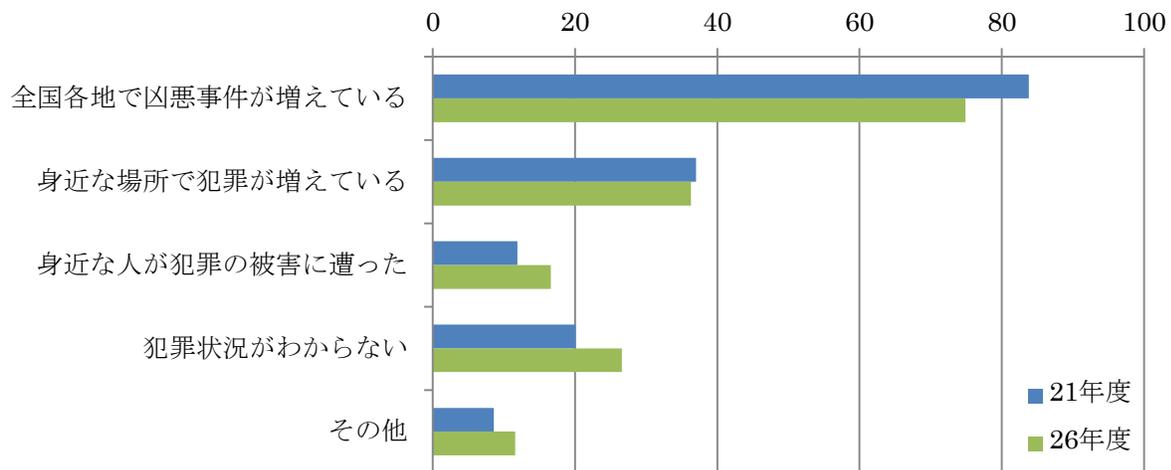
安全で安心な地域社会を実現するためには、まず「身近な場所」における防犯環境を整えていくほか、犯罪の発生状況や防犯対策についてきめ細かな広報をしていく必要があります。

こうしたアンケートの結果から見ても、犯罪の防止に努めた安全で安心な地域社会を実現するためには、市民一人ひとりの防犯意識を高め、地域防犯活動への参加を促し、さらに身近な防犯環境を整備していくことなどが必要であり、市、市民、町内会等、事業者、警察などの関係機関が連携し合い、積極的に事業に取り組むことで危険回避能力の向上につなげていく必要があります。

《問》 不安を感じる原因は何ですか。  
 当てはまるもの全てを選んでください。

という質問に対し、	平成 21 年度	平成 26 年度
「全国各地で凶悪事件が増えている」・・・・・・・・	83.8%	74.9%
「身近な場所で犯罪が増えている」・・・・・・・・	37.0%	36.3%
「身近な人が犯罪の被害に遭った」・・・・・・・・	11.9%	16.6%
「犯罪状況がわからない」・・・・・・・・	20.1%	26.6%
「その他」・・・・・・・・	8.6%	11.6%

という結果でした。



※平成 21 年度からの質問事項です。